

ふりかえり会議（中間）コーディネーター意見書

事業名：NPOからの協働事業提案「新たなごみ減量化（3R）システムの構築について」

事業パートナー：NPO法人みどりの家

行政担当課（室）：環境森林部ごみゼロ推進室

生活部NPO室

コーディネーター氏名（所属）：奥島要人（行政書士）

ふりかえり会議開催年月日：平成18年12月22日（水）10：00～12：00

1. 協働の状況について

（協働の妥当性・パートナー選択・資源配分と責任分担・意思決定のしくみと対等性の視点から）

今回の事業は、NPO法人みどりの家が環境森林部ごみゼロ推進室と新たなごみ減量化（3R）システム検証業務、生活部NPO室とそれにかかるファシリテート業務を行うという内容の契約であったが、協働事業提案者であるNPO法人がファシリテートをするまでするという部分についてNPO室との間で十分な共通理解が得られていなかったように感じた。

2. 実施事業の状況について

（戦略性（計画性）・事業の継続性と柔軟性・情報公開の視点から）

実施状況についても、ファシリテート業務について十分な共通理解が得られぬまま行われ、NPOが負担に感じるという問題もあったようだが、検討会を通して行政（県・市）とNPO、そして市民が同じ目的について話し合いができたという部分では、それだけでも十分意義のあることだったともいえるのではないかと思われる。

3. 事業実施体制について

（資源配分と責任分担・意思決定のしくみと対等性・事業の継続性と柔軟性・情報公開の視点から）

事業実施体制としては、責任分担を明確にし、事業の方向性等についてもっと十分な話し合いをもって情報の共有できる体制にすべきであると感じた。

4. 活動領域について

（資源配分と責任分担の視点から）

現状の活動領域	目指すべき活動領域
B 1	B 2

公の活動領域

行政が担う公	県民が担う公	私的領域 (市場)		
A	B 1	B 2	B 3	C

公の活動領域の考え方

Aの領域：行政だけで担っている領域

Bの領域：県民と行政が共に担っている領域

B 1：行政が主となり県民が参加参画協力する領域

B 2：県民と行政がそれぞれ役割分担する領域

B 3：県民が主となり行政が支援している領域

Cの領域：県民だけで担っている領域

5. 行政担当課（室）からのコメント

環境森林部ごみゼロ推進室	室長	垣野隆一	記入者	佐藤邦彦
<p>【ふりかえり会議をやって気づいた点、今後の展開等】</p> <p>地域住民、事業者及び行政との協働のもとNPOが担い手となる新たなごみ減量化（3R）システムの構築について、資源ごみの持ち込み量に応じて利用者にサービスを還元するインセンティブとなるような新たな仕組みによる拠点回収事業の成果の検証に係る業務を委託してきました。契約を結ぶまでの事業内容等の調整に時間がかかり、受託者に負担をかけたことも一部ありましたが、今回のふりかえり会議を行ったことで、今後の展開の方向性を共有できたことは良かったと思います。</p>				

生活部NPO室	室長	若林千枝子	記入者	明石須美子
<p>【ふりかえり会議をやって気づいた点、今後の展開等】</p> <p>これまで、NPOからの協働事業提案募集により選定された提案の検討会は、提案者の先駆性や機動性を発揮して幅の広い検討が行われるよう、提案者にそのファシリテート業務を委託してきました。今回の事業の中で、（特活）みどりの家からご意見をいただき、提案者がファシリテートを担うことで、本来の専門性の発揮を妨げる場合があることに気がつきました。事業を実施している途中では、なかなか普段思っていることを伝える機会がありません。ふりかえり会議を行うことで、いろんな角度から事業を見つめることができました。</p> <p>今回いただいたご意見をもとに、平成19年度のNPOからの協働事業提案募集の制度設計の際には、ファシリテート業務の課題を解消するよう改善していきたいと思います。</p>				

6. 事業パートナーからのコメント

特定非営利活動法人みどりの家	代表	石谷由里	記入者	石谷由里
<p>【ふりかえり会議をやって気づいた点、今後の展開等】</p> <p>当会議を行ったことで、何か変わったことがあるのか、何かが変わろうとしているのか、先日、新年度の協働事業提案の説明会で発表させていただいたため出席させていただいた後の現在も、よくわかりません。</p> <p>今後の展開等については、事業報告書にてお伝えさせていただきました内容と同じであります。</p>				